

市の主な食品ロス削減関係事業一覧

令和7年12月末日現在

基本方針	①食品ロスの発生を抑制			②未利用食品等の有効活用を推進		③食品ロス削減に向けた情報を発信	④食品ロス削減のための連携を強化	
基本施策	①食品ロスに関する意識の醸成	②家庭での食品ロス削減の推進	③事業系食品ロス削減の推進	④未利用食品等の販売や再生利用	⑤未利用食品等の循環による有効活用	⑥食品ロスの認知度向上や削減に向けた積極的な情報発信	⑦国及び北海道との連携	⑧事業者や市民等との連携・協働
事業名	食品ロス削減ポータルサイトを活用した取組紹介	食品ロス削減親子クッキングの開催	飲食店事業者と連携した取組の推進	規格外農産物等の販売による食品ロス削減	フードドライブに関する情報収集と連携	SNSを活用した情報発信／イベント実施等に合わせた啓発	国や北海道との連携	教育機関と連携した食品ロス削減の取組紹介
R7年度事業実績	食品ロス削減ポータルサイトを最新の内容に更新し、フードドライブや食品ロス削減に関するイベント等の情報を掲載した。	料理家を講師に招き、食品ロスの削減につながるレシピや手法について学ぶ親子クッキングを開催した（8月）。	食品関連事業者に「あさひかわ食品ロス削減協力店」の募集について案内し、応募があった9事業所を協力店として登録するとともに、協力店での食品ロス削減に関する取組内容をポータルサイトで紹介した。	旭川市のホームページ上で「あさひかわ直売マップ」を掲載し、市民等に対して直売所の情報を提供（掲載数29カ所）。	フードバンク団体や福祉関連部局と連携して、市庁舎においてフードドライブを実施した。（6～3月）	SNSを活用し、食品ロス削減月間に合わせてフードドライブの実施について発信した。（10月に2回実施）また、あさひかわエコカーニバルの周知の中で、フードドライブの実施について発信した。（10月）	消費者庁における食品ロス削減月間における「SNS媒体を活用した食品ロス削減啓発プロジェクト」に参加し、食品ロス削減月間及び食品ロス削減の日についてSNSで発信した。（10月）	食品ロスの削減について学校給食指導資料に掲載し、各学校に配付した（11月）。
R8年度事業計画	ポータルサイトを活用し、食品ロスに関する新着情報や削減に係る取組などについて適宜発信する。	食品ロスの削減につながるレシピや手法について学ぶ親子クッキングを開催する。	引き続き食品関連事業者に対して、食品ロス削減協力店を募集し、登録店舗を増やすとともに、協力店での食品ロス削減の取組をポータルサイトで紹介する。	引き続き、あさひかわ直売マップの運用を通じて直売所等の情報を発信する。必要に応じて情報の追加などを実施する。	フードバンク団体や福祉関連部局と連携して、フードドライブの在り方について検討する。	食品ロス削減に関するイベントについて、SNSを活用し、必要な情報発信を行う。また、一年を通じてパネル展を開催する。	国や北海道が把握する食品ロスの現状等の情報を確認しながら、食品ロス削減推進月間の取組など、共同で実施できる取組について連携を図る。	学校給食指導資料の掲載を継続する。
事業の効果・課題	一定の閲覧回数があり効果的に情報発信を行えている。さらに閲覧数を増やすための効果的な手法を検討する必要がある。	参加者のアンケート結果から、非常に好評なイベントであり、親子ともに食品ロス削減に対する啓発効果があった。	事業者と連携し、周知啓発することで、事業者、利用者双方に食品ロス削減についての意識が高まり、外食や買い物などでの食品ロスの削減が期待できる。	直売所では市場に出荷されない規格外農産物等も販売されることから、食品ロス削減に寄与した。	フードバンク団体と連携してフードドライブを実施したことで、食品ロスの削減を図ることができた。	SNSの活用により、必要な情報をタイムリーに提供できる。パネル展は人が多く集まる様々な場所で長期間実施したが、効果測定が難しい。	国や北海道で制作した啓発資材や素材などを活用することができる。	学校等、教育機関と一定の連携を図ることができた。
R8年度以降の考え方	現状の取組を継続する。	啓発効果が高いと思われる他の手法についても検討していく。	食品関連事業者への直接訪問などを通じて、協力店の登録店舗を増やす。	現状の取組を継続する。	引き続きフードバンク団体や関係者と連携・協議しながら取組を検討する。	SNSを活用し積極的な情報発信を行う。パネル展は現状の取組を継続する。	現状の取組を継続する。	現状の取組を継続する。